

6月は、環境月間です！

環境問題が発生しやすい季節となりました。
最近、糞尿処理方法や悪臭等の苦情が増えてきています。
今後も地域と調和した経営を継続するためにも環境対策の再点検を行いましょ！

①臭気対策は大丈夫ですか？

- ◆ 家畜から排せつされた糞尿は、そのまま堆積すると嫌気的な状態（空気にさらされていない状態）となり、悪臭が発生します。糞尿は速やかに切り返しなどを行い空気を十分与えて好気発酵を行うと悪臭が少なくなり、良質な堆肥が生産できます。
- ◆ 堆肥の切り返しや散布は、時間や天候、風向きなどを考慮して行いましょう。
- ◆ 除糞や畜舎及び畜舎周辺の清掃を励行し、臭気発生抑制に努めましょう。



②ハエの発生対策はできていますか？

- ◆ 食べこぼしやこぼれた糞などは、ハエ（ウジ）の発生源となります。また、サシバエ等の発生は、家畜のストレスとなるだけでなく家畜伝染病を伝搬します。
- ◆ 畜舎の隅、飼槽、給水器の下、床の隅などは念入りに掃除、除糞を行いましょ。
- ◆ 定期的に殺虫剤を散布しましょ。散布する場合は、適切な用法・用量で散布し、使用記録を付けてください。



③河川等を汚染していませんか？

- ◆ 畜舎、堆肥舎等から堆肥や汚水が流出していませんか。堆肥は、滞留させず速やかに利用、流通しましょ。
- ◆ 堆肥運搬車両には堆肥がこぼれないように、シートをかぶせるなどの対策をしましょ。



- ◆ 家畜排せつ物処理法により、牛・馬10頭以上、豚100頭以上、鶏2000羽以上の飼養者は家畜排せつ物を処理施設で管理することが義務付けられています。
- ◆ 家畜排せつ物の年間の発生量、処理方法・数量を記録しましょ。

家畜排せつ物法の管理基準と記録について

管理基準とは？

管理基準は、家畜排せつ物を処理や保管(管理と呼びます。)する際に、まもっていただく必要がある基準です。すでに平成16年11月1日から適用されています。

適用対象者は？

一定規模以上の家畜を飼養する畜産農家や事業者が対象になります。

～管理基準の適用対象規模～

牛： 10頭以上

豚： 100頭以上

鶏： 2,000羽以上

馬： 10頭以上

※上記数字は飼養する家畜の頭羽数

管理基準の内容は？

1 管理施設の構造設備に関する基準

- ア ふんなど固形状の家畜排せつ物を管理する施設は、**床を不浸透性材料**（コンクリートなど汚水が浸透しないもの）**で築造し、適当な覆いと側壁を設けること**
- イ 尿やスラリーなど液状の家畜排せつ物を管理する施設は、**不浸透性材料で築造した貯留槽とすること**

2 管理の方法に関する基準

- ア 家畜排せつ物を、**管理施設で管理**すること
- イ 管理施設の**定期的な点検**を行うこと、管理施設の破損を**遅滞なく修繕**すること、装置の**維持管理を適切**に行うこと
- ウ 家畜排せつ物の**年間の発生量、処理の方法、処理の方法別の数量について記録**を行うこと

Q:家畜排せつ物の発生量等の記録はどうすればいいの？

家畜排せつ物の発生量を正確に把握することは難しい面があります。このため、簡便な方法で記録していただけるように様式が定められています。

次ページ以降の様式を参考にして下さい。記録したものは次回まで保存しておきましょう。

管理基準の内容について、詳しいことが知りたいときは、最寄りの都道府県の畜産担当部署にお問い合わせ下さい。

記入様式(乳用牛)

※白い欄の中の該当部分に数字を記入します。

平成 年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録

(記入日:平成 年 月 日)

1. 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位:t/年)

種類	平均的な飼養頭数(頭) ① ※頭数を記入します。	1頭当たり排せつ物量 ※以下の数字は、標準的な量として設定されたものです。		1年当たり排せつ物量 ※頭数(①)と1頭当たり排せつ物量(②、③)を かけ算して求めます。		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④ (①×②)	尿 ⑤ (①×③)	合計 ⑥ (④+⑤)
		搾乳牛		16.6	4.9	
乾・未経産牛		10.8	2.2			
育成牛		6.5	2.4			
合計		-	-			

注1)平均的な飼養頭数は、2月1日現在の頭数又は当該年と前年の2月1日現在の平均頭数等を用いて下さい。

2. 処理の方法及び処理の方法別の数量

処理方法	割合 ※発生量を10割とした場合の処理方法別の 大まかな割合を記入します。	
	ふん	尿
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割	割
③ 浄化処理施設で処理	割	割
④ 焼却施設で処理	割	割
⑤ その他()	割	割
()	割	割
合計	10 割	10 割

注1)②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等へ譲渡したものについて記入して下さい。

注2)ふん尿混合で処理を行っている場合や固形物として処理している場合はふんの欄に、液状物として処理している場合は尿の欄に記入して下さい。

注3)割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入して下さい。

記入様式(肉用牛)

※白い欄の中の該当部分に数字を記入します。

平成 年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録

(記入日:平成 年 月 日)

1. 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位:t/年)

種類	平均的な飼養頭数(頭) ① ※頭数を記入します。	1頭当たり排せつ物量 ※以下の数字は、標準的な量として設定されたものです。		1年当たり排せつ物量 ※頭数(①)と1頭当たり排せつ物量(②、③)を かけ算して求めます。		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④ (①×②)	尿 ⑤ (①×③)	合計 ⑥ (④+⑤)
		2歳未満		6.5	2.4	
2歳以上		7.3	2.4			
乳用種		6.6	2.6			
合計		-	-			

注1)平均的な飼養頭数は、2月1日現在の頭数又は当該年と前年の2月1日現在の平均頭数等を用いて下さい。

2. 処理の方法及び処理の方法別の数量

処理方法	割合 ※発生量を10割とした場合の処理方法別の 大まかな割合を記入します。	
	ふん	尿
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割	割
③ 浄化処理施設で処理	割	割
④ 焼却施設で処理	割	割
⑤ その他()	割	割
()	割	割
合計	10 割	10 割

注1)②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等へ譲渡したものについて記入して下さい。

注2)ふん尿混合で処理を行っている場合や固形物として処理している場合はふんの欄に、液状物として処理している場合は尿の欄に記入して下さい。

注3)割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入して下さい。

記入様式(豚)

※白い欄の中の該当部分に数字を記入します。

平成 年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録
(記入日:平成 年 月 日)

1. 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位:t/年)

種類	平均的な飼養頭数(頭) ① ※頭数を記入します。	1頭当たり排せつ物量 ※以下の数字は、標準的な量として設定されたものです。		1年当たり排せつ物量 ※頭数(①)と1頭当たり排せつ物量(②、③)を かけ算して求めます。		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④ (①×②)	尿 ⑤ (①×③)	合計 ⑥ (④+⑤)
肥育豚		0.77	1.39			
繁殖豚		1.20	2.56			
合計		-	-			

注1)平均的な飼養頭数は、2月1日現在の頭数又は当該年と前年の2月1日現在の平均頭数等を用いて下さい。

2. 処理の方法及び処理の方法別の数量

処理方法	割合 ※発生量を10割とした場合の処理方法別の 大まかな割合を記入します。	
	ふん	尿
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割	割
③ 浄化処理施設で処理	割	割
④ 焼却施設で処理	割	割
⑤ その他()	割	割
()	割	割
合計	10 割	10 割

注1)②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等へ譲渡したものについて記入して下さい。

注2)ふん尿混合で処理を行っている場合や固形物として処理している場合はふんの欄に、液状物として処理している場合は尿の欄に記入して下さい。

注3)割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入して下さい。

記入様式(馬)

※白い欄の中の該当部分に数字を記入します。

平成 年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録
(記入日:平成 年 月 日)

1. 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位:t/年)

種類	平均的な飼養頭数(頭) ① ※頭数を記入します。	1頭当たり排せつ物量 ※以下の数字は、標準的な量として設定されたものです。		1年当たり排せつ物量 ※頭数(①)と1頭当たり排せつ物量(②、③)を かけ算して求めます。		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④ (①×②)	尿 ⑤ (①×③)	合計 ⑥ (④+⑤)
馬		8.4	1.8			

注1)平均的な飼養頭数は、2月1日現在の頭数又は当該年と前年の2月1日現在の平均頭数等を用いて下さい。

2. 処理の方法及び処理の方法別の数量

処理方法	割合 ※発生量を10割とした場合の処理方法別の 大まかな割合を記入します。	
	ふん	尿
① 自家処理し、自己の経営内で利用	割	割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用	割	割
③ 浄化処理施設で処理	割	割
④ 焼却施設で処理	割	割
⑤ その他()	割	割
()	割	割
合計	10 割	10 割

注1)②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等へ譲渡したものについて記入して下さい。

注2)ふん尿混合で処理を行っている場合や固形物として処理している場合はふんの欄に、液状物として処理している場合は尿の欄に記入して下さい。

注3)割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入して下さい。

記入様式(採卵鶏)

※白い欄の中の該当部分に数字を記入します。

平成 年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録

(記入日:平成 年 月 日)

1. 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位:t/年)

種類	平均的な飼養羽数 (千羽) ① ※千羽単位で羽数を記入します。	千羽当たり排せつ物量 ※以下の数字は、標準的な量として設定されたものです。		1年当たり排せつ物量 ※羽数(①)と千羽当たり排せつ物量(②、③)を かけ算して求めます。		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④ (①×②)	尿 ⑤ (①×③)	合計 ⑥ (④+⑤)
6カ月齢未満		21.5	—		—	
6カ月齢以上		49.6	—		—	
合計		—	—		—	

注1)平均的な飼養羽数は、2月1日現在の羽数又は当該年と前年の2月1日現在の平均羽数等を用いて下さい。

2. 処理の方法及び処理の方法別の数量

処理方法	割合 ※発生量を10割とした場合の処理方法別の 大まかな割合を記入します。	
	ふん	
① 自家処理し、自己の経営内で利用		割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用		割
③ 焼却施設で処理		割
④ その他()		割
()		割
合計	10	割

注1)②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等へ譲渡したものについて記入して下さい。

注2)割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入して下さい。

記入様式(ブロイラー)

※白い欄の中の該当部分に数字を記入します。

平成 年度 家畜排せつ物の発生量等に関する記録

(記入日:平成 年 月 日)

1. 年間の家畜排せつ物の発生量 (単位:t/年)

種類	平均的な飼養羽数 (千羽) ① ※千羽単位で羽数を記入します。	千羽当たり排せつ物量 ※以下の数字は、標準的な量として設定されたものです。		1年当たり排せつ物量 ※羽数(①)と千羽当たり排せつ物量(②、③)を かけ算して求めます。		
		ふん ②	尿 ③	ふん ④ (①×②)	尿 ⑤ (①×③)	合計 ⑥ (④+⑤)
ブロイラー		47.5	—		—	

注1)平均的な飼養羽数は、2月1日現在の羽数又は当該年と前年の2月1日現在の平均羽数等を用いて下さい。

2. 処理の方法及び処理の方法別の数量

処理方法	割合 ※発生量を10割とした場合の処理方法別の 大まかな割合を記入します。	
	ふん	
① 自家処理し、自己の経営内で利用		割
② 自家又は経営外で処理し、経営外で利用		割
③ 焼却施設で処理		割
④ その他()		割
()		割
合計	10	割

注1)②は、たい肥センター等の共同処理施設、耕種農家等へ譲渡したものについて記入して下さい。

注2)割合は、過去1年間の処理方法に基づいて記入して下さい。